

丹沢山地におけるササ 3 種の 2014 年の開花記録

永田幸志*・田村 淳**

Flowering records of three bamboo species in the Tanzawa Mountains in (the year) 2014

Koji NAGATA*, Atsushi TAMURA**

I はじめに

丹沢山地では 24 のタケ科植物（以下、タケ・ササ類）が確認されている（勝山ら 2007）。丹沢山地の暖温帯から冷温帯に生育する主なタケ・ササ類は 3 種あり、アズマネザサ (*Pleioblastus chino* (Franch.&Sav.) Makino var. *chino*)、スズタケ (*Sasamorpha borealis* (Hack.) Nakai var. *borealis*) とミヤマクマザサ (*Sasa hayatae* Makino) である（勝山ら 2007）。タケ・ササ類は、数十年～百数十年に一度の周期で開花し、また、多個体が同調して一斉開花枯死することが知られている（蒔田ら 2010）。2013 年に丹沢山地各地でスズタケの一斉開花が確認された（永田・田村 2014）が、2014 年も丹沢山地各地でスズタケの開花が確認されたことから、広く情報収集しタケ・ササ類の開花情報として記録した。

II 材料と方法

開花情報を収集した種は、丹沢山地に生育する上記 3 種とした。開花情報を広く収集するために、次の県内各機関の職員に図 1 の資料を配布して開花情報（種名、確認日時、確認場所、開花の規模）の提供を依頼した。対象とした機関は、神奈川県自然環境保全センター、神奈川県自然公園指導員連絡会、神奈川県各地域県政総合センターの森林管理部、

神奈川県立ビジターセンター、林野庁関東森林管理局東京神奈川森林管理署である。

III 結果および考察

調査期間中に提供された開花情報はスズタケ 67 件（種不明だが、確認場所からスズタケと推測されたものを含む）、ミヤマクマザサ 5 件であった。アズマネザサの開花情報は得られなかった。開花の確認された場所を図 2 に示した。いずれの情報も、開花の確認されたおおまかな範囲または開花の確認された歩行ルートが情報提供されたため、図示した線上で部分的にササの開花が確認されたという状況である。

図 2 から、主稜線部を中心に丹沢山地の各地でスズタケが開花し、丹沢山周辺、加入道山周辺、大山周辺等では、ミヤマクマザサが開花したことがわかる。2013 年の開花記録（図 3）と比較すると、2014 年に開花の確認された場所は、2013 年に開花した場所と同一か、その周辺域であることがわかる。特に、檜洞丸の西南斜面にあたる、つつじ新道、石棚山稜、同角山稜での開花範囲の拡大が顕著であった。

丹沢山地では、ニホンジカ (*Cervus nippon*) による過度の採食圧により、スズタケの退行等の林床植生の劣化が指摘されている（村上ら 2007）。2013 年にスズタケの開花が確認された場所では 2014 年

* 神奈川県自然環境保全センター研究企画部自然再生企画課（〒 243-0121 神奈川県厚木市七沢 657）

** 神奈川県自然環境保全センター研究企画部研究連携課（〒 243-0121 神奈川県厚木市七沢 657）

V 引用文献

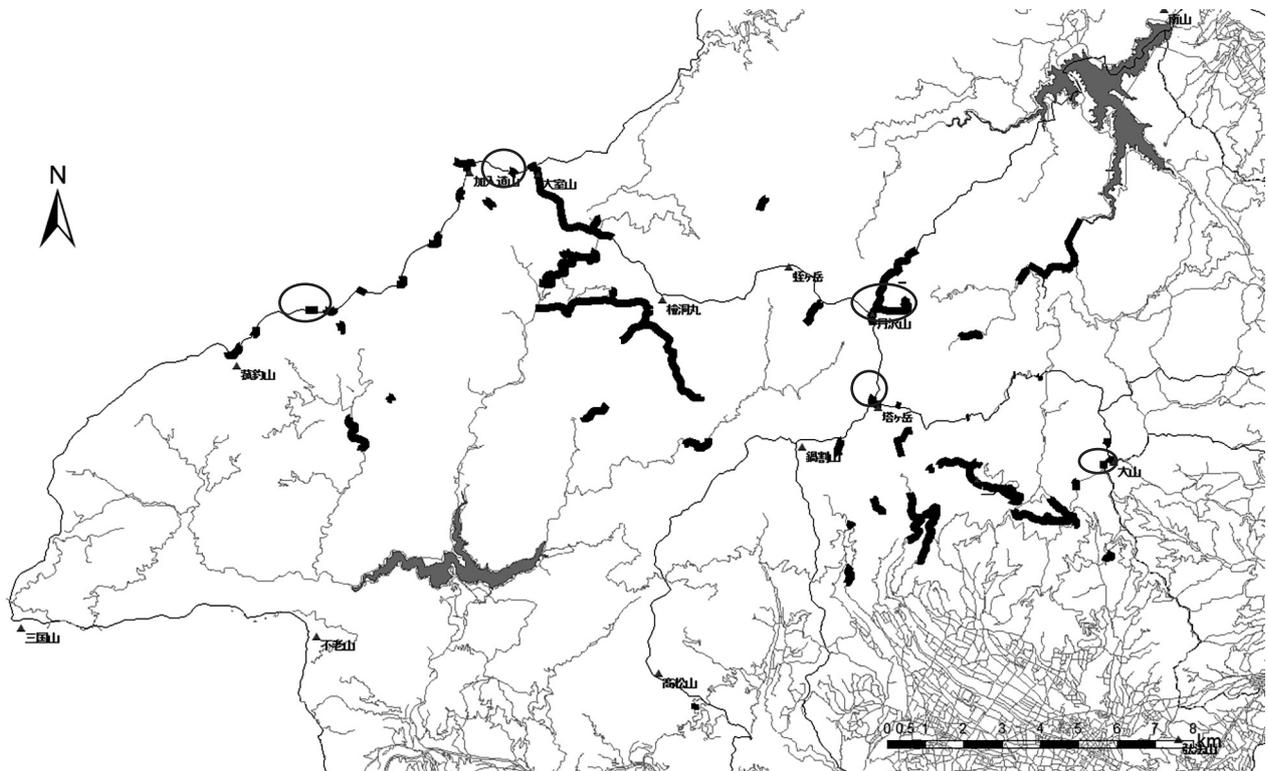
村上雄秀・鈴木伸一・林寿則・矢ヶ崎朋寿 (2007) 丹沢大山の植生—シカ影響下の植物群落— 17-87. 丹沢大山総合調査学術報告書. 丹沢大山総合調査団編, 794pp, (財) 平岡環境科学研究所, 相模原

勝山輝男・田村淳・田中徳久 (2007) 維管束植物. 1-44. 丹沢大山総合調査学術報告書 丹沢大山動

植物目録. 丹沢大山総合調査団編, 472pp, (財) 平岡環境科学研究所, 相模原.

蒔田明史・鈴木準一郎・陶山佳久 (2010) Bamboo—その不思議な生活史—. 日本生態学会誌 60: 45-50.

永田幸志・田村淳 (2014) 丹沢山地におけるササ3種の2013年の開花記録. 神奈川県自然環境保全センター報告 12:43-45



 ササの開花箇所 *1
 ミヤマクマザサの開花が確認された箇所 *2

図2 2014年にササ類の開花が確認された場所
 *1 太線上で部分的に開花が確認された。
 *2 囲んだ中の一部地域でミヤマクマザサの開花が確認された。

